

<ソロウォーキング> 二ヶ領用水を「円筒分水」まで遡る

■2020年5月7日(木) 天候:晴れ 5400歩 約3.5km (※折り返しなのでレポートは往路のみ)

6日までの緊急事態宣言が31日まで延び、予想していたとはいえモヤモヤ感が増すことに。そこで先に「私の散歩道」で紹介した二ヶ領用水ですが、数年ぶりに「円筒分水」が見たくなり、新型コロナ対策をした上で午後から歩いてみました。数日前までは残り花の散策路もすっかり青葉が茂り、用水沿にはのんびりと散歩を楽しむ人々の姿が見受けられました。

この日はやや風が強かったものの、抜けるような青空が広がり、気持ちの良いミニウォークとなりました。 <小島>



いつもの竹橋からスタート。東屋のハナミズキは青葉に。



ノジマとサンドラッグを右手に見て左岸を北へ遡ります。



前日の雷雨のせいで、いつもは綺麗な流れもこの日は水が濁っていました。



この辺りはしだれ桜が見事な場所ですが、青葉となってしまった今は平凡な風景が続くばかりです。





この配管はいったい何でしょうか。



鴨は日光浴中？



右の道は旧水路の跡。



両側は住宅街になっています。



この先、上には第三京浜が。



この辺りには梨園がまだ残っている。



※出会った花々を並べてみました。例によって花の名前は記憶にございません！



白亜の教会がありました。



この辺りの両岸もしだれ桜の散歩道です。



二ヶ領用水には多くの小橋が架かっています。



ここで田園都市線の下を潜ることに。



旧大山街道の大石橋。趣のある欄干が特徴です。



この先の左岸はレンガ歩道に。



※歩道の足元には、数メートルおきに用水沿いで見られる可愛い生き物たちが描かれています。





夏は用水沿いの木陰を選んで歩けます。休憩所もあり一休み。



ここで国道246号の陸橋を渡ります。



陸橋から見た東京方面。



反対側は厚木方向になります。



下りると先はまた二ヶ領用水に。



円筒分水の案内。もうすぐです。



以前は砂利道も今はタイル張り。



円筒分水から出る二ヶ領用水川崎堀。



農業用水を正確に分水するために造られた「久地円筒分水」。国の登録有形文化財です。



■円筒分水とは■ ちょっと長いですが・・・

サイフォンの原理などを利用して円筒中心部に水を導き、その水が円筒外縁部を越流する際に外縁部に設けた仕切りで分配するものや、外縁部に設けた穴の数によって分配するものなどがある。

水田耕作が主体であった日本では、各地で農業用水の確保にまつわる紛争(水論、水争い)が絶えず、農業用水の正確な分水は長く懸案であった。そこで、大正年間より正確な配水が可能な分水樋が考案され、各地で似た構造の施設が造られ始めた。当初は高低差を利用して導水する方式のものが造られ、1934年(昭和9年)になると福島県や長野県などで地下から吹き上げる方式のものが造られるようになった。ただし長野県に造られた施設では円筒を使わず、分水樋の中央に吹き上げられた水が放射状に拡がる原理を利用したもので、流水量に偏りが生じるといった欠点もあった。この欠点を克服するために、円筒状に組んだコンクリート設備の中心にサイフォンの原理で導水し、円筒を越流させて分水する方式が考案された。

この方式を採用したのが神奈川県川崎市高津区久地にある久地円筒分水(国の登録有形文化財)で、同地にあった二ヶ領用水の分水樋の改修に際し、1941年(昭和16年)に造られたものである。この方式により平地の用水路でも正確な分水を実現できたため、以降、同様の方式のものが全国各地に造られるようになった。(Wikipediaより抜粋)

※この「久地円筒分水」を含めて、全国には15箇所ほどが現存しています。(下はその一例)



安積疎水・白江幹線<須賀川市>



通潤用水小笹円形分水<熊本県>



横井清水(艶三郎の井)<伊那市>

以上、久地円筒分水までのコースを簡単にご紹介しましたが、ここはこれから夏場にかけて緑溢れる散歩道となります。今回、改めて調べると同様の施設が全国各地に存在するようで、俄然興味が湧いてきましたが、もっと早く気づいていれば古城巡りのついでに見られたものを、今からではもう手遅れ！ 時間だけはあるのでWebサイトを見て我慢するとします。

END